

自分の命を守り抜く主体的な行動力育成をめざした防災教育

小千谷小学校

中越大震災後の学校・保護者・地域からの思いや願いを基に、復興のシンボルとして建設されたのが小千谷小学校である。その基本コンセプトの1つが「防災拠点となる学校づくり」である。全教室が最新の耐震設計で建設されており、体育館は震災時の避難所となることを想定し、免震構造となっている。また、体育館下に備蓄倉庫を設置し、非常用の機材等を収納して地震等の災害に備えている。この恵まれた防災施設を活用しながら、児童の防災意識・行動の強化と防災体制の充実に努めている。そのための主な取組が、次の2つである。

1 主体的な行動力を目指した避難訓練の実施

具体的な行動マニュアルを明確にし、年間3回の避難訓練を実施している。

- ・災害時における避難経路、避難場所の指導
- ・休憩時の地震発生時に自分で考え、判断して行動する力の育成
- ・積雪時における避難行動力の育成



積雪時の避難訓練の様子

特に、危機管理対応を確実にするため、次の3点に力を入れている。

- ① 避難対応マニュアルを見直すことで、実際の災害に即した避難訓練をする。
- ② グラウンドや体育館などへの避難経路を分かりやすく、統一性をもたせることで、児童が混乱なく素早く、安全に避難できるようにする。
- ③ 自分で考え、判断して行動する力を育成するための事前指導に力を入れる。

2 防災教育カリキュラムを活用した授業の実施

「新潟県防災教育カリキュラム」を基にして自校化した防災教育カリキュラムを作成し、学級活動や総合的な学習の時間に、児童が「自分の命を自分で守る」という意識を高めるための授業を行っている。なお、防災教育カリキュラム作成に当たっては、6年間の系統性を大切にしている。

	低学年 (学級活動)	中学年 (総合)	高学年 (総合)
津波災害編	2時間	2時間	3時間
地震災害編	1時間	1時間	1時間
洪水災害編	2時間	2時間	2時間
土砂災害編	1時間	1時間	1時間
雪災害編	2時間	2時間	2時間



地震災害について学ぶ様子



この他にも、「放射線に関する副読本」を活用したり、外部講師を招いたりしての学習も行っている。また、5学年の総合的な学習の時間では、近隣の施設「そなえ館」や市役所の危機管理課の方と連携をしての学習を、年間を通じて行っている。



そなえ館で学ぶ様子

<今後に向けて>

発生から12年が経過し、現在、子どもたちの多くは中越大震災を知らない。しかし、震災体験を風化させることなく、防災意識をもった子どもたちの育成をさらに図っていく。